

令和5年度 第2回 小牧市健康づくり推進審議会 議事録

日 時	令和5年11月1日(水) 14時00分～15時15分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	<p><b>【委員】(名簿順)</b></p> <p>高野 健市 小牧市医師会会長  三輪 雅一 小牧市医師会副会長  竹内 友康 小牧市歯科医師会会長  堀尾 恭正 小牧市薬剤師会副会長  小島 英嗣 小牧市民病院副院長  寺本 圭輔 愛知教育大学保健体育講座教授  夏目 有紀枝 名古屋経済大学人間生活科学部准教授  佐藤 史洋 小牧市立小中学校長会  土屋 一義 小牧市地区民生委員児童委員連絡協議会  山田 勇 小牧市老人クラブ連合会副会長  平田 和代 保健連絡員役員  加藤 陽子 一般公募市民  中島 早織 一般公募市民  西尾 央 全国健康保険協会愛知支部  林田 賢 市内企業労務担当</p> <p><b>【代理出席】</b></p> <p>戸田 輝子 春日井保健所 健康支援課長</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>江口 幸全 健康生きがい支え合い推進部長  落合 健一 健康生きがい支え合い推進部次長  野口 弘美 保健センター所長  西村 泰洋 保健センター所長補佐  森 里加 保健センター 成人保健係長  永井 政栄 健康生きがい推進課長  岩下 貴洋 健康生きがい推進課 健康政策係長  小川 真波 健康生きがい推進課 健康政策係主査  前川 桂佑 健康生きがい推進課 健康政策係主事</p>
欠席者	1名(青木 翔太 地域包括支援センター)
傍聴者	0名
配付資料	資料1 小牧市健康づくり推進審議会委員名簿 資料2 小牧市健康づくり推進プラン(素案)
<p>1 開会</p> <p>(1) あいさつ</p> <p>(2) 委員の交代及び新規就任について</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 小牧市健康づくり推進プランの素案について 事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料2をもとに第1章から第4章までを説明</li> </ul>	

#### 高野会長)

- ・ 前計画の振り返りで、評価 D：良くなっていない項目を中心に意見を伺いたい。

#### 夏目委員)

- ・ 大変分かりやすくまとめられた資料である。
- ・ 前回の会議でも朝食の欠食の話があがったが、改めて、P17 図表 22「朝食について」の中学 2 年と高校 2 年の欠食の高さが気になる。
- ・ P18 図表 23「就寝時間について」をみると、夜遅く起きている年代と朝食の欠食が同じ年代に多く、生活習慣と朝食欠食が関連しているのではないかと考える。
- ・ また、図表 24「この 1 年で「食育」に関して経験したこと」で「経験なし」と回答した割合について、小学校 5 年も高いが、高校生の食育経験なしも 20%と高い。高校生の食育は小学生に比べると、先生と接する時間も少なく栄養教育などの食育を行いにくい環境なのではとの印象を持った。
- ・ P33 の第 3 次小牧市食育推進計画の振り返りで、主な取組として、学齢期・思春期の給食に関連する取組があった。
- ・ 給食は非常に大事なことであり、今後も継続していくべきである。加えて、高校生から青年期にかけての食生活や食習慣は将来メタボリックシンドロームにもつながる入口となりうるため、高校生の年代の食育についても、地元の企業や教育機関と協力をしながら積極的に機会の提供できればよいと思う。

#### 高野会長)

- ・ メタボの入り口は中高生からという委員の意見に同意である。
- ・ 前回の議論でも学校では食育の時間をとるのは難しいという意見が出たように記憶しているが、食育は時間がなくても行う必要があると思われるが、改めて学校現場としてはどのように考えているか意見を伺いたい。

#### 佐藤委員)

- ・ 学校現場では、算数や国語などの単元に比べ、「食育」という単元としては時間が取れていないのが現状である。小学生の 21%に食育の経験なしとの結果が出ているが、小学校 5 年生から家庭科が始まり、家庭科では必ず食に関して学習しているところであり、食育の経験がないわけではない。
- ・ ただ、小学生では「食育」の言葉のイメージと実際の経験が乖離しているが、中学生になると両者がつながってくるため、食育の経験なしの割合が下がっているのだと分析している。
- ・ 栄養教諭が各学校をまわり、給食の時間に、実際に食べている時に食べながら話を聞いてもらうといった取組を今年度は積極的に行っている。

#### 事務局)

- ・ 食育専門部会は、幼稚園・保育園・小・中学校の先生、栄養教諭、食育のボランティアなどからなる会議体で、その部会の中で各種団体の取組を共有しながら食育の推進の検討を行っている。それぞれの取組としては推進されているが、食育のことなのか家庭科のことなのかリンクしていない課題があると思う。
- ・ 食品ロスなど食育に関わる環境分野も含め、食育とは何かといった啓発や、食育が児童・生徒の皆さんの身近にあることを普及啓発していきたいと考える。

#### 竹内委員)

- ・ P37 の基本方針 (4) フレイル対策とあるが、小牧市歯科医師会では、今後オーラルフレイルを推進していくため、「オーラルフレイル」も追加してほしい。

**高野会長)**

- ・ 栄養・食生活の評価は D 判定が多くなっていることや、高校生が考えていなければ当然大学生も考えてないと推察されるが、現状はどうか、ご意見を伺いたい。

**寺本委員)**

- ・ 朝食の欠食について高校生の欠食率が高いが、大学生はさらに高かったと記憶している。
- ・ 大学生は朝食の欠食に限らず、生活自体の管理が課題となっている。自宅から通っている学生は多少家族の管理はあるものの、アルバイトを始めるなどすると睡眠時間が短くなる。当大学の保健体育講座では、保健体育の教員養成のため比較的知識は持っている学生が多いものの、大学全体の共通科目として健康に関する授業はない。大学としても、生活習慣や健康についての教育もしていく必要があるのではと、改めて考えさせられた。

**事務局)**

- ・ 資料 2 をもとに第 5 章 1. 栄養・食生活から 4. 母子保健までを説明

**高野会長)**

- ・ 第 5 章 1. 栄養・食生活から 4. 母子保健の説明があつたが、1. 栄養・食生活は先ほど意見をいただいたので、第 5 章 2. 歯の健康について意見をいただきたい。
- ・ オーラルフレイルの認知度を上げる取組など、現状について伺いたい。

**事務局)**

- ・ 乳幼児期においては、フッ化物を応用した歯の健康づくりの取組を普及啓発も含めて実施している。
- ・ オーラルフレイルに関しては乳幼児期というよりは青年期以上の取組であるが、様々な機会を捉えつつ普及啓発に取り組んでおり、今後も関係機関と連携を図りながらアプローチを広げていけるよう取り組みたいと考えている。

**高野会長)**

- ・ 今後、具体的な取組を作してほしい。
- ・ 第 5 章 3. 休養・こころの健康について、自殺のことを含めて意見を伺いたい。

**戸田委員)**

- ・ こころの分野は非常に大きな社会問題になっている。8050問題に代表されるようなひきこもりの問題は早い時期から対応が必要になってくる。そうした意味ではこころの問題や悩みを抱えた人が早くに相談できたり、周りの人に支えてもらえたりできるような仕組みが重要だと思う。
- ・ 特に働く世代については、職域分野のなかでストレスへの対応や悩みに寄り添って支援することも重要だと思う。

**高野会長)**

- ・ 社会人になってからの話もあがったが、企業や労務の領域からもメンタルヘルスについて議論や課題が出ていると考えるが、いかがか。

**林田委員)**

- ・ 先ほど相談する体制という話があがったが、当社の工場では産業医が常駐することになり、産業医と看護師が守秘の状況を作ったうえで、就業時間内であれば、いつでも相談できる体制を整えたことにより、気軽に相談に来てくれるようになった。
- ・ 相談へのハードルが低くなったことで症状が軽いうちに相談に来てもらえ、重症化する人が減り、治りやすくなっているといった意見も出ている。
- ・ 人数の少ない事業所では、産業医や看護師の常駐はないが、月 1 回程度の面談の日

を作って話を聞く体制をとっており、業務上の問題でメンタル面に問題が生じることがほぼなくなった。

- ・ その他、産業医が講師として、係長以上の部門長にメンタルの講習を行っている。1回や2回ではなかなか身に付かないが、事例や対処方法、自らがメンタルになった時に異動するなどの幅広い対処方法を学んでもらっている。上長が部下の異変を見逃さないように、早めに声を掛け、産業医への相談を進めるなど体制を構築している。

#### 高野会長)

- ・ こころの健康について、市が具体的にどのようにサポートしていくか、企業の具体的な取組を参考にしながら検討していくことが必要でないか。
- ・ 続いては第5章4. 母子保健について、実状を知る機会がないため意見を伺いたい。

#### 加藤委員)

- ・ 昨年、保健連絡員として赤ちゃん訪問を行った。
- ・ お母さん方は相談できる人が近くにいない。特に初産の人は、実際の子育てに困惑している場面が多い。例えば、赤ちゃんが夜こんなに泣くのかと戸惑うといった声が聞かれた。
- ・ 出産が2回目3回目やサポートのある人は良いが、初産の人や他県から来て自分たちだけで育てている人は、メンタル的にしんどくなったり、困ったりしている方もいる。
- ・ そのように見受けられる人の情報を地区担当保健師に連絡したが、今は地域のつながりが弱く、親子が孤立しがちだと思う。すぐ近くに自分の親がいるなど相談できる人がいる人は良いが、そうでない人もいる。保健連絡員で関わった赤ちゃん訪問は30件程ある。
- ・ その中で、しんどいと思った人は保健センターに連絡をすると、保健師が訪問し、必要なサポートするといった仕組みはとても良いと思う。

#### 事務局)

- ・ 資料2をもとに第5章 5. 健診・検診受診から8. 社会で支える健康づくりまでを説明

#### 高野会長)

- ・ 健診・検診について、受診しにくい理由など、意見はどうか。

#### 山田委員)

- ・ 特定健診・健康診査における人間ドック及びがん検診について、現在は有料となっている。
- ・ 現在の受診率はかなり低いですが、向上させたいのであれば、70歳以上もしくは後期高齢者については料金の免除が望ましいのではないかと。
- ・ 第5章 6. 生活習慣病予防・重症化予防について P.55 (2) 方向性の下から2つ目の「○生活習慣病に関する正しい知識の普及と、生活習慣病を予防するための取組を周知します。」とあるが、具体的にはどのような取組か。

#### 高野会長)

- ・ 有料化については予算もあるが、要望としてお聞きする。
- ・ 生活習慣病予防・重症化予防についての具体的な取組についてとの意見があったが、いかがか。

#### 事務局)

- ・ 生活習慣病については、日頃の運動習慣やたばこ・アルコールなど、様々な要因に

よって起こるものだと思う。

- ・ そのため、個々の予防策や愈った場合の症状を含めて資料・広報・ホームページ・イベント・行事をとおして市民に周知をしているところである。
- ・ また、地区健康展の開催においては、保健連絡員の協力を得る中で、さまざまな情報の提供や測定などを実施しており、計画への記載内容については、わかりやすい記述になるよう改めて検討したい。

#### 高野会長)

- ・ 山田委員と同世代の人々には周知が行き届いていないという指摘だと思われるため、老人クラブ等を通じて周知するのはひとつの手だと思う。
- ・ 第5章 7. フレイル対策も身体活動だけではなく食事の問題、社会参加、生きがいと多岐に渡るが、フレイルの言葉自身もまだまだ周知されていない。しかし、最近国がフレイルに統一して国民に分かってもらおうと動いていると認識している。フレイルの言葉を含め啓発して欲しい。
- ・ 第5章 8. 社会で支える健康づくりについては、いかに人材の育成を進めていくかといった命題があるようだが、実際、現在の取組はどうか。

#### 事務局)

- ・ 健康づくりの人材としては、本市には保健連絡員制度がある。
- ・ こちらについては、各区長の推薦をいただき、保健センターと地域をつないでもらうパイプ役として活動をいただいている。
- ・ また、食育ボランティアについては、例えば、広報での食育レシピの紹介やいきいきこまき等のイベントでブースを設けるなど活動されている。
- ・ 育成に向けた取組の状況としては、保健連絡員の場合、健康づくりに関する勉強会の実施や地域活動の際に地区担当保健師が寄り添う中で、活動支援を行っている。
- ・ 市では、さまざまな場面において市民の力が必要になることがあり、こうした各種ボランティアの場合、興味のある方を広く募るなかで、勉強会など、養成講座を開催することもある。
- ・ コロナ渦では、こうした講座自体ができていない状況もあったが、今後、地域における健康づくりを推進するにあたっては、地域の担い手が必要だと考えている。
- ・ 興味のあることや、今までの経験を通じて、地域で活躍いただけるような術を検討して実施していきたいと考える。

#### 高野会長)

- ・ 人を育てるのは難しく、一朝一夕ではできるものではない。何年も掛けてやっと一人二人かなというところであり、息の長い活動が必要になる。
- ・ 養成講座を広く、また、回数も増やす必要がある。
- ・ ここ数年見ていて、ボランティアの個々の力に頼っていると感じる。もう少しシステムティックな人材の育成に力を注ぐ必要がある。

### (2) その他

#### 事務局)

- ・ 議事録の確認依頼
- ・ 次回の開催日時及び場所について
- ・ 資料の内容について、その他気づいた点や意見がある際は事務局へ

### 3. 閉会